

## 労務管理の 拡大 に反対 必要の都度一口試問等 とは？

### 全ての乗務員のみなさん 特に車掌のみなさん

すでに皆さんも気付いているように最近、乗務点呼の一部に変化が見えます。なかでも車掌の点呼で、クルー全員を対象にして「一口試問？」がされていることに驚きを感じている方も多いと思いますが、これは大きな変化です。この大きな変化は、なぜなのでしょう？

標準で「必要の都度一口試問等を行う」と記されていることが、その根拠です。しかし多くの場合「一口試問」とは言われず「モード切りかえ」とか「一つ聞きます」とか「確認します」と言われます。しかも、これまでの対象のほとんどは東海労組合員でしたが、最近は車掌長を含め、かつ労組の区別なく「それでは…」となっているのが特徴です。これは東海労だけでなく 全乗務員への労務管理の強化と拡大 への変更であり、「命令と服従」「規律と忠誠心」の徹底です。

乗務員にとって乗務点呼は、乗務準備の最終段階であり心身ともにサァ行くぞっ という瞬間です。その時に「標準」にあるとは言え執拗に繰り返される 一口、二口、三口…「試問」は乗務員に対する威圧でしかありません。この威圧は、車掌なら 車内業務やBQに影響します。運転士なら 不安定な心理状態での運転となり、安全に直結します。そのような影響があることを考えて、「試問」をしているとは思えません。サービスや安全を考えているとはとても思えません。

乗務員は「試問」の答えが分らなかったり、一部しか分らず全てを答えられない時は、分りません と言うしかありません。にもかかわらず、大丈夫ですか？ お客様に聞かれたらどうするのですか？ 故障が発生したらどうするのですか？ と迫ってくるのは、更なる 追い打ちの威圧 であり絶対に認められません。皆で、こう 言いましょう。

**威圧だけの「試問」はサービス向上と安全確保に逆行だ！**